

出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地

多古の石柱(松江市)



島根半島・宍道湖中海
ジオパーク



GEO PARKS
JAPAN
日本ジオパーク



テーマ

今、なぜジオパーク?・国引きの地から持続可能な地域づくりを考える

第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会

【参加者募集】

2021
10/3(日)~5(火) [開催地] 松江市・出雲市

GEO PARK

第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会 [概要]

大会名称 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会

目的 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会は、ジオパーク事業の取り組みを多くの方々に知っていただくとともに、各ジオパークの情報交換や意見交換などを行い、ジオパークの一層の発展・向上につなげることを目的として開催します。

テーマ 「今、なぜジオパーク？ ～国引きの地から持続可能な地域づくりを考える～」

会期 令和3年10月3日(日)～5日(火)

会場 くにびきメッセ(3～5日、松江市)、ビッグハート出雲(3日、出雲市)

主催 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会
一般財団法人自治総合センター

共催 日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会、
日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック

大会 開会前

プレジオツアー

	ツアー名	実施日	担当
1	大陸分裂の島根半島縦断ツアー ～日本海の幸がモリモリ～	10/2,3	島根半島・宍道湖中海(国引き) ジオパーク推進協議会
2	悠久の大地で潮汲み体験 ～島根半島四十二浦を巡る(出雲編)～	10/2,3	
3	宍道湖・中海の生き物と歴史文化ツアー	10/2,3	
4	大地の偉大な造形巡り ～人々を魅了する巨樹・巨岩・大地～	10/2,3	

10/2^土

松江会場 (くにびきメッセ)

時間	プログラム	オンラインの場合の参加方法	参加対象者
15:00 ～17:00	JGN活動相談会 会場/501会議室	—	ジオパーク 関係者

10/3^日

出雲会場 (ビッグハート出雲)

時間	プログラム	オンラインの場合の参加方法	参加対象者
13:00 ～15:45	市民公開講座 (講演、パネルディスカッション) 会場/白のホール	視聴のみ YouTube Live	ジオパーク 関係者
10:00 ～17:00	JGN6ブロック別 パビリオン 会場/黒のホール 茶のホール アートギャラリー レセプションスペース 文化サロン	ホームページ閲覧 希望者のポスターや 動画を掲出	一般の方
10:00 ～17:00	ジオパーク展示 会場/通路等	—	—
10:00 ～17:00	物産展 会場/通路等	なし	—
10:00 ～17:00	スタンプラリー 会場/各催し会場	なし	—

松江会場 (くにびきメッセ)

時間	プログラム	オンラインの場合の参加方法	参加対象者
10:00 ～12:00	JGC事前相談会 会場/501会議室 601会議室	—	—
13:00 ～15:00	JGN運営会議 会場/国際会議場	—	ジオパーク 関係者
15:00 ～17:00	市町村長セッション 会場/小ホール	視聴のみ YouTube Live	—



松江会場 (くにびきメッセ)

時間	プログラム		オンラインの場合の参加方法	参加対象者
9:00 ～10:00	開会式 会場／大展示場2/3	1. 主催者・共催者あいさつ ①第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会実行委員長 ②日本ジオパークネットワーク理事長 ③日本ジオパーク委員会委員長 2. 来賓紹介・あいさつ 3. 新規認定証授与・JGN表彰	↑ 視聴のみ YouTube Live ↓	ジオパーク関係者
10:05 ～10:45	特別講演 会場／大展示場2/3	ラフカディオ・ハーン 講演「小泉 八雲、「ジオ」へのまなざし」 講師：小泉 凡 小泉八雲記念館長(島根県立大名誉教授) 日本文化のインタープリターとして知られる、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン/1850-1904)は、1890年8月から1年3か月間、松江に滞在した。山陰の自然に魅了され、宍道湖や島根半島をジオ的まなざしで観察し、火山・地震・種々の岩石に言及しつつ、詩人的感性で描写した。とくに「子どもの魂の岩屋」「日御碕」「伯耆から隠岐へ」(いずれも「知られぬ日本の面影」)などにジオ的描写が豊かにみられる。 また、勤務先の島根県尋常中学校で行われていた地質学の連続授業では、宍道湖や海岸地帯へのフィールドワークを行い、イギリスの生物学者・博物学者であるトマス・ヘンリー・ハクスリーの研究成果が生かされていることに驚嘆し、高く評価している。(「英語教師の日記から」)そして、八雲自身もハクスリーの著書11冊を愛蔵し、その中には地質学の書も含まれていた。 後年、神戸時代に書いた新聞記事「地震と国民性」では、自然災害が多発し、海岸線も河川の流れも変わるような国土が、日本人に変化を受け入れる能力を付与した。西洋文明を短期間で受容・昇華することができたのもその成果だと評価する。この風土と文化の相関についての仮説も、松江時代のジオ的観察が土台となっていることは言うまでもない。 熊本五高での講演では、「自然との共生とシンプルライフの維持が将来の日本にとって最重要」であることを説いた。オープン・マインドで異文化を受け入れ、人種差別や人間中心主義を嫌悪した八雲の精神は、SDGsの思想とも響き合うものを感じられる。		ジオパーク関係者 一般の方
10:55 ～11:35	基調講演 会場／大展示場2/3	講演「過去から将来への沿岸環境と人新世」 講師：齋藤 文紀 国立大学法人島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター長・教授(JGC委員) 人類が日本列島に住むようになって以降、海水準は100m以上も変動してきた。現在よりも2度ほど温暖であった縄文前期から海水準はほぼ安定しており、沿岸低地や沿岸域の多くの地形がこの期間に形成されている。将来の海水準の変動では、最新のIPCCの報告によると2300年に現在よりも1mから5m上昇することが推定されている。また海水準の上昇以外の人間活動によっても沿岸環境は大きな影響を受けており、沿岸域は最も脆弱な地域の一つとされている。一方、人間活動は地球環境を大きく改変しつつあり、新たな地質時代の人新世が国際地質科学連合において現在検討されている。持続可能な社会を構築するためにも、これらの最新の知見や沿岸環境が抱える問題などについて報告する。		↑ ↓
11:35 ～12:05	基調提起 会場／大展示場2/3	講師：米田 徹 日本ジオパークネットワーク理事長 大会テーマ「今、なぜジオパーク?」に対する答えを参加者各自が導き出せるように、これまでの10年のジオパーク活動への想いや今後の活動の展望などについてお話をいただく。	↓	
12:05 ～14:00		昼 休 憩		
13:00 ～17:30	ガイド講習会(有料) 会場／401会議室	体験(アクティビティ)を通してメッセージを伝える技術「インタープリテーション」に触れ、楽しく安全に、お客様が主役となる場作りを体験・実習する。 担当：萩ジオパーク推進協議会 講師：(一社)をかしや 菊間 彰氏 環境教育事務所Linoworks代表 仲上 美和氏	なし	↑
14:00 ～15:00	グループトーク 会場／多目的ホール 小ホール 501会議室 601会議室	参加者が各分科会会場に分かれ、「今、なぜジオパーク?」なのか、これから10年の考え方や手法などについて参加者同士が議論する。	↑	ジオパーク関係者
15:00 ～17:30	口頭発表を中心とする分科会 会場／多目的ホール 小ホール 国際会議場 501会議室	①保全・保護 【ジオパークで考える海ゴミ問題】 海ゴミ問題に取り組むジオパーク関係者に、現状の課題や解決への取り組み事例などを紹介してもらい、各関係者および参加者の意見交換や議論から今後の海ゴミ問題への取り組みを共有し、ジオパークプログラムにおける保全活動について考える。 ファシリテーター：兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 川村 教一 教授、佐野 恭平 助教 担 当：山陰海岸ジオパーク推進協議会	対話式 Zoom	↑

<p>②担い手育成(学校教育)</p> <p>【ジオパークで目指したい教育ってなに?】</p> <p>ジオパークの教育は単に地形や地質を学ぶことではない。「今、なぜジオパーク?」なのか。社会に求められている子どもたちの教育に、ジオパークはどのように貢献できるのかを議論する。</p> <p>基調提起：芝浦工業大学 工学部 谷田川ルミ 教授 芝浦工業大学 建築学部 栗島 英明 教授</p> <p>ファシリテーター：室戸ジオパーク推進協議会事務局 担当：室戸ジオパーク推進協議会</p>
<p>③社会貢献(防災)</p> <p>【ジオパークだからこそできる防災・減災活動】</p> <p>災害を“自分ごと”として考えられる取り組みを模索する。タスクチームを創設して、全国大会後も分科会での意見等を踏まえながら活動を継続し、最終的な防災・減災活動方針等を取りまとめる。</p> <p>ファシリテーター：東北学院大学 目代 邦康 准教授 担当：四国西予ジオパーク推進協議会</p>
<p>④ネットワークの意義・活用(地域内のネットワークづくり)</p> <p>【地域内のパートナーシップで何が出来るのか】</p> <p>ジオパーク協議会はトップダウンではなく、地域組織(地元企業含む)や住民と連携しながらボトムアップで取り組んでいく必要がある。そういった連携の事例発表によって、情報共有し、ジオパーク全体のレベルアップに繋げていく。</p> <p>ファシリテーター：隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局 他 担当：隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会</p>

対話式

Zoom

ジオパーク
関係者

10/4日

松江会場(くにびきメッセ)

時間	プログラム		オンラインの場合の参加方法	参加対象者
9:00 ~17:30	展示ブース 会場/大展示場2/3	JGN正会員及び準会員地域、JGN協賛会員、大学、研究機関等に対して、展示スペースを提供し、PRの場として活用していただく。		
10:05 ~10:45	ポスターセッション 会場/大展示場2/3	ジオパークに関するさまざまな活動事例、研究成果、問題点やそれに対する取り組みなど、幅広い観点からの事例発表を募集します。		
	1 活動事例 (保全・保護)	ジオサイト等における保全・保護活動、海ごみ問題に対する取り組み、湿地での保全活動 等		
	2 活動事例 (担い手育成)	学校、地域等における教育、地域住民との協働、ガイド養成 等		
	3 活動事例 (社会貢献)	防災やユニバーサルデザイン等の取り組み、with/afterコロナ時代のジオパークの取り組み 等		
	4 活動事例 (ネットワークの意義・活用)	ジオパーク地域内のネットワーク活動、日本国内または世界のジオパークとのネットワーク活動、企業とジオパークの連携 等		
	5 活動事例 (地域振興)	ジオツーリズム、ガイド活動、ジオブランド商品の取り組み、マーケティング戦略 等	ホームページ閲覧 希望者のポスターや動画を掲出	ジオパーク 関係者 一般の方
	6 最近の学術研究成果 (ジオ、エコ、ヒト、融合研究)	各ジオパークで最近行われた学術研究の成果や、各ジオパーク学術研究助成金等利用者による研究成果を発表する。		
	7 ジオパークにある 神話・伝説をジオ 言葉で語ってみよう	地質や地形の学術は人々の生活の中で芽生えてきたもので、その原点は神話や伝説と同じところにあったと考えられている。神話や伝説の多い島根半島・宍道湖中海ジオパークでの開催を機会に、全国のジオパークで語られてきた神話・伝説を持ち寄り、古代から続く人々の地域の自然観を再発見してみませんか。		
	8 その他	文化、自然、生態系、食に関する取り組み、VRやSNSを活用した取り組み 等		
13:00 ~13:50	ポスターセッション コアタイム 会場/大展示場2/3	発表者がポスターの前に立ち、説明していただく。		
9:00 ~17:30	物産展 会場/大展示場2/3	①全国のジオパーク特産品販売 ②国引きジオブランド商品、地元特産品コーナー ③しじみ汁販売コーナー ④参加者弁当受け渡しコーナー	なし	

松江会場(くにびきメッセ)

時間	プログラム		オンラインの場合の参加方法	参加対象者
9:00 ~12:00	ガイド講習会(有料) 会場/401会議室	10月4日から引き続き開催	なし	ジオパーク 関係者
9:30 ~12:00	口頭発表を 中心とする分科会 会場/多目的ホール 小ホール 国際会議場 501会議室 601会議室	①保全・保護 【ジオパークでの湿地の価値の評価と保全の実際】 湿地の多面的な価値の評価方法を共有し、ジオパークプログラムにおける湿地での保全活動、持続可能なツーリズム、教育活動とは何かについて考える。 基調講演: 広島大学大学院 人間社会科学研究所 浅野 敏久 教授 ファシリテーター: 富永 紘平(筑波山地域ジオパーク推進協議会) 野口 和典(南紀熊野ジオパーク推進協議会) 担 当: JGN運営会議保全ワーキンググループ	対話式 Zoom	ジオパーク 関係者
9:00 ~12:00	②担い手育成(地域住民) 【地域住民との協働】 どのようにステークホルダーとして地元企業を巻き込んでいくか、地元が潤うシステム作りを地域住民と一緒にどのように考えるかなどの議論を促し、持続可能な地域経済活動とは何かについて考える。 ファシリテーター: 和歌山大学 教育学部 此松 昌彦 教授 和歌山大学 観光学部 出口 竜也 教授 山陰海岸GPガイドコーディネーター 今井 ひろこ 氏 担 当: 南紀熊野ジオパーク推進協議会			
9:30 ~12:00	③社会貢献(ユニバーサルデザイン) 【大自然の驚異に立ち向かう人類~多様なリスク評価ネットワーク~】 Covid-19などの感染症や地球温暖化、自然災害など大小様々な脅威に対して、地域と人の多様性とこれをつなぐネットワーク活動を生かしたリスク回避と克服の可能性と人類の地球での持続可能な生活を、ユニバーサルデザインの観点から議論する。 ファシリテーター: 松原 典孝(山陰海岸ジオパーク推進協議会)他UDワーキンググループ 担 当: JGN運営会議ユニバーサルデザイン(UD)ワーキンググループ			
9:00 ~12:00	④ネットワークの意義・活用(ジオパーク同士のネットワークづくり) 【ネットワークによる多様な連携】 日本国内だけでなく、世界のジオパーク間のネットワークについても取り上げ、事例発表と情報共有を行い、ジオパーク全体のレベルアップに繋げていく。 ファシリテーター: 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局他 担 当: 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会			
9:00 ~12:00	⑤地域振興(ツーリズム) 【ジオツーリズムと地域振興】 ジオツーリズムは、特に地質や景観に焦点をあてた自然エリアを訪れ、ツアー参加者の資源の保全への志向性を高める事業である。それはジオサイト(見学場所)への旅行、ジオ多様性の保全、鑑賞と学習を通じた地球科学への理解を促進させる。 しかし、ジオパークでは、ジオサイトを守ることで地域を発展させる仕組みがきちんと構築されているのか? この分科会では、資源保護と地域経済の成長を両立させ持続的な地域の経済的発展を促進する仕組みや課題について議論する。 ファシリテーター: 株式会社ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長 参加対象者: ジオパーク運営団体事務局員 担 当: Mine秋吉台ジオパーク推進協議会			
12:00~13:00	休 憩			
13:00 ~14:30	パネルディスカッション 会場/大展示場2/3	○分科会の各ファシリテーターから分科会内容について報告する。 ○パネルディスカッションファシリテーターと分科会ファシリテーター及び会場参加者とのディスカッションを行う。 ○これから10年のジオパーク活動について議論を深め、大会テーマ「今、なぜジオパーク?」の答えをまとめる。 ファシリテーター: NPO法人桜島ミュージアム 福島 大輔 理事長(桜島・錦江湾ジオパーク)	視聴のみ YouTube Live	ジオパーク 関係者 一般の方
14:30 ~15:00	閉会式 会場/大展示場2/3	1. 大会宣言 第11回 日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 実行委員長 2. 次回開催地あいさつ 白山手取川ジオパーク推進協議会 3. 閉会のことば 第11回 日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 実行委員長		ジオパーク 関係者
9:00 ~16:30	ポスターセッション、 展示ブース、物産展 会場/大展示場2/3	10月4日から引き続き開催		ジオパーク関係者 一般の方

大会
閉会后

ポストジオツアー

	ツアー名	実施日	担当
1	大地の偉大な造形巡り ～人々を魅了する巨樹・巨岩・大地～	10/5,6	島根半島・宍道湖中海（国引き） ジオパーク推進協議会
2	悠久の大地で潮汲み体験 ～島根半島四十二浦を巡る（松江編）～	10/5,6	
3	河の力で変わる大地と歴史 ～自然に向き合う人々の智慧～	10/5,6	
4	溶岩を読む・楽しむ・動かす！ ～陸上火山と海底火山～	10/5,6	
5	大地と人をつなぐ 隠岐の島町満喫ジオツアー	10/6,7	隠岐ユネスコ世界ジオパーク 推進協議会
6	大地から紐解く神社めぐりツアー in西ノ島	10/6,7	
7	日本海沿岸の環境問題を考える ～日本海が作り出した景観と環日本海の歴史～ 【保護保全部会「海ゴミ」との連動型ジオツアー】	10/5,6	山陰海岸ジオパーク推進協議会

島根への
交通アクセス



飛行機

- 羽田空港 出雲縁結び空港 …… 約80分
- 秋・石見空港 …… 約90分
- 伊丹空港 出雲縁結び空港 …… 約50分
- 小牧空港 出雲縁結び空港 …… 約60分
- 福岡空港 出雲縁結び空港 …… 約65分
- 静岡空港 出雲縁結び空港 …… 約80分
- 仙台空港 出雲縁結び空港 …… 約90分

JR

- 東京～松江 新幹線・やくも …… 約6時間10分
- 新大阪～松江 新幹線・やくも …… 約3時間40分
- 博多～松江 新幹線・やくも …… 約4時間30分
- 東京～松江 寝台特急サンライズ出雲 …… 約12時間

高速バス（休憩時間含む）

- 東京～松江 …… 約11時間20分
- 名古屋～松江 …… 約8時間55分
- 大阪～松江 …… 約4時間40分
- 広島～松江 …… 約2時間55分
- 博多～松江 …… 約8時間05分



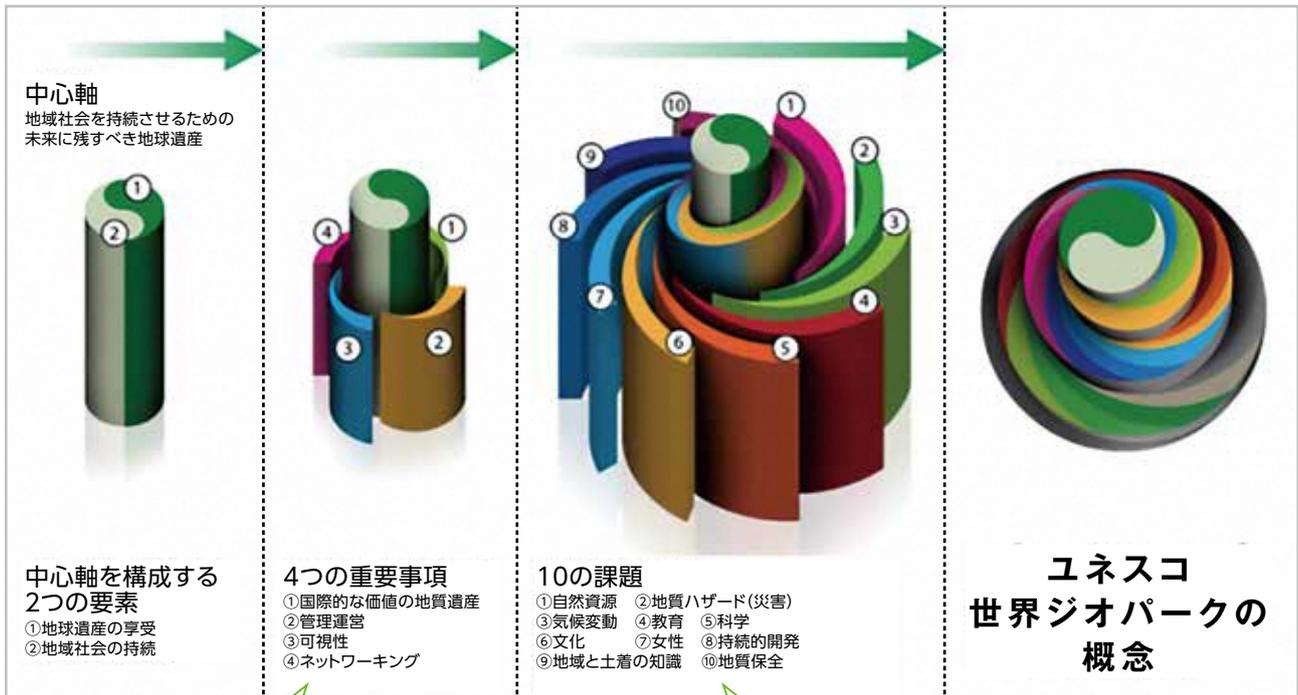
ジオパークとは

国際的に地質学的意義のあるサイトや景観が**保護、教育、持続可能な開発**で一体となった考え方により管理された、飛び地になっていない単一の地理的エリアです。

ユネスコ世界ジオパークは、地球資源を持続的に利用したり、気候変動の影響を緩和したり、自然災害の影響を軽減するといった、社会が直面している重要課題への意識と理解を高めるため、その**地域のあらゆる自然・文化遺産と関連した**地質遺産を利用しています。歴史と現代社会の中で、地域の地質遺産の重要性について意識を高めることにより、ユネスコ世界ジオパークは地域住民に自分たちの**地域に対する誇り**を与え、地域と地域住民の一体感を強めます。

地域の地質資源が保護されている一方で、**ジオツーリズム**などを通じて**新たな収入源が生まれる**ので、革新的な地元企業や新しい雇用、質の高い研修コースの機会が活発に作り出されます。

ユネスコ世界ジオパークの概念



・国際的価値の地質遺産 (Geological heritage of international value)

ユネスコ世界ジオパークには、そのエリアは国際的に価値のある地質遺産が存在。

・管理運営 (Management)

ユネスコ世界ジオパークは、国の法律の下で認められた組織によって管理。その組織はエリア全体を包括し、すべての関連構成組織を含む。住民の社会的経済的ニーズに応え、遺産を保全し文化的独自性を保存するために、構成員で合意された管理計画が必要。

・可視性 (Visibility)

主にジオツーリズムを通じて地域の持続可能な開発を推進。訪問者だけでなく住民も、ユネスコ世界ジオパークの関連情報を見つけれられること。

・ネットワーキング (Networking)

エリアの住民と協力だけでなく、世界ジオパークネットワーク (GGN) や地域ネットワーク (APGNなど) を通じて、他のユネスコ世界ジオパークと協力し、お互いに学びジオパークのブランドを向上。国境を超えて協力することで、さまざまなコミュニティ間の理解を深め、平和を構築することを支援。

1. 自然資源……………天然資源の持続的利用と環境保全
2. 地質ハザード(災害)……ハザードの理解と災害軽減
3. 気候変動……………気候変動の記録と再生可能エネルギー
4. 教育……………地質と自然、文化、無形遺産と連携した教育の実施
5. 科学……………エリアでの科学研究実施と地球のプロセスに理解
6. 文化……………地域社会、経験、地球の営みの繋がりの探求と享受
7. 女性……………教育や共同組織体を通じた女性への機会提供
8. 持続的開発……………地域住民の持続可能な開発計画
9. 地域と土着の知識………地域や土着の文化の保存と享受
10. 地質保全……………地球の遺産を大切に保護

第11回日本ジオパーク全国大会
島根半島・宍道湖中海大会
実行委員会事務局

【松江市役所地域振興課 ジオパーク推進室】〒690-8540 島根県松江市末次町86番地
TEL: 0852-55-5399 FAX: 0852-55-5665 E-mail: kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp
【出雲市役所政策企画課 ジオパーク係】〒693-0001 島根県出雲市今市町70番地
TEL: 0853-21-6612 FAX: 0853-21-6752 E-mail: seisaku@city.izumo.shimane.jp

f 島根半島・宍道湖中海ジオパーク

